

東京都歴史教育者協議会 第48回研究集会

日時：2015年2月22日（日）10:00～16:30（9:30 開場）

会場：筑波大学附属駒場中・高等学校

資料代：会員 500 円 学生会員無料 一般 800 円 学生 500 円

プログラム（途中参加も可能です）

- ・ 記念講演（10:10～12:00） 講演 90 分＋質疑を予定しています
- ・ 分科会（13:00～） 会員による報告です。詳細は裏面をご覧ください

記念講演

内海愛子氏（恵泉女学園大学名誉教授）

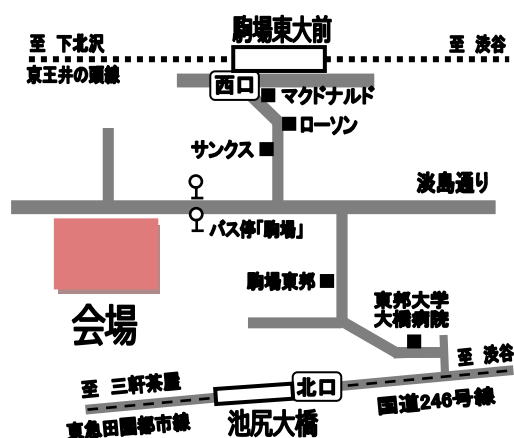
「アジアから見る日本 — 『戦後』70年と私たち」

1954年アメリカはビキニ環礁で水爆実験を行い第五福竜丸が被爆した。その1年半前に原爆の写真が公開されたばかりだった。被爆し重体になった久保山愛吉さんに全国から3000通もの手紙が届いたという。中学1年の私も手紙を書いた。手紙にはアメリカへの怒りは書いていた。

だが、なぜ、原爆を投下されたのか、日本がアジアで何をしたのか、それを考える視点はなかった。1960年代になって少し、アジア人の人たちの被害が見えてきた。

戦後70年、日本はアジアとどう向き合ってきたのか。1980年代からエビ・ナマコの調査で歩いたアジアの海辺で考えた「戦争」「開発」の問題を、日本とアジアの関係からお話し、考えたいと思います。

アクセス



- ・京王井の頭線 駒場東大前 徒歩7分
- ・東急田園都市線 池尻大橋 徒歩10分
- ・東急バス 渋51・渋52 駒場 徒歩1分
- ・小田急バス 渋54 駒場 徒歩1分

東京都歴史教育者協議会（東京歴教協）とは？

東京の教員、大学生・院生や、歴史に関心のある市民の方々などを中心とした研究会で、都内各地で例会活動やフィールドワークを行っています。年に1度開催する研究集会は、講演と分科会を通じ、学問と教育、歴史認識、魅力的な授業づくりなどについて学び合う場となっています。

会員以外の方も、例会・研究集会に参加可能です。まずはお気軽にお越しください。

東京都歴史教育者協議会

事務局（富永）Tel & Fax 042-488-3619

E-mail tokyo.rekkyo1964@gmail.com

ホームページ <http://tokyo-rekkyo.jimdo.com/>



< 中学分科会 >

「戦中・戦後体験の聞き取りをどう授業に活かすか？」

4年ぶりに中2の歴史を担当し、生徒に戦中・戦後体験の聞き取りを行っていただきました。戦後70年を経た今日、どのような体験が聞き取れたのかにまず興味をもちました。そして、それらを授業で発表してもらいました。現代に生きる生徒たちがどのように取り組み、どのように受け止めたのかを報告したいと思います。

「日本地理から政治学習へ」

1～2年の地理学習で地域の様々な課題を取り上げる時、「ここから先は3年の公民で」とする一方で、3年の公民では具体例をていねいに取り上げる時間はあまりない。しかし、「政治は何を大事にすべきか」「だれの立場に立って考えるか」を自覚し深めていくことは、地域の課題を学ぶ場面からすでに始まっている。沖縄や原発問題などを例に、生徒の感想を踏まえて、地理と公民のつながりを見直してみたい。

< 平和と人権分科会 >

「夜間中学および自主夜間中学の現状と、義務教育拡充法案成立のための国会院内集会に関する報告」

全国に少数散在している夜間中学の現状報告、夜間中学が担ってきた役割と今後実現を目指す具体的方向性についてご紹介します。また夜間中学等義務教育拡充議員連盟と全国夜間中学校研究会共催による『夜間中学等の全国拡充に向けた』国会院内シンポジウムに関する報告をさせていただきます。

「特別授業『3・11』から3年」

昨年報告した「3年間積み上げた『人権・平和学習』の集大成 長崎修学旅行」につづく第2弾。卒業を間近に控えたこの学年の最後の「人権・平和学習」として「3・11」当日に行った特別授業の実践です。

< 戦争と戦後を考える分科会 >

「シベリア抑留と戦後補償問題」

高校3年「日本史B」の授業で、戦後補償問題の一つとしてシベリア抑留を取り上げました。おざわゆきさんの漫画『凍りの掌』や地元の抑留経験者の方のお話（授業当日は映像）を取り上げ、抑留の実態や戦後の状況、さらに、ソ連の対応および日本の政府・司法などの動きをふまえながら、加害と被害の両面から考え、「戦後」においても終わらない戦争の実態を学んだものです。当日は教材や学習の視点などの課題についても考えたいと思います。

「日本軍の侵略の傷跡を訪ねて—マレーシア・シンガポールでの掘り起こし・交流・和解」

日本陸軍のコタバル上陸から始まったアジア太平洋戦争。マレー半島各地において、略奪、住民虐殺、皇民化教育などの犠牲が強いられた「3年8か月」であった。現地の人々の傷は深く、未だに癒えていない。《大東亜共栄圏》が虚偽に満ちた侵略であったことの体験から、今の日本の政治を危惧している。30年余、証言を聴き、追悼と交流を重ねる中で、加害・被害を超えた平和を希求する連帯意識が形成されてきた。その経過を報告する。